

## オンライン講演会

本年6月より北方海域技術研究委員会の代表に就任いたしました。不慣れな故、至らない点多々あろうかと存じますが、ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

さて、COVID19の世界的な感染拡大により1年延期となった東京オリンピックが8月8日に閉幕しました。17日間に及んだ大会期間中、国内の新規感染者は17万人を超え、この原稿を執筆している8月末日時点においても日々感染者は増加しており、医療の逼迫も深刻化しています。北海道においても感染拡大は収まることなく、8月27日には3回目の緊急事態宣言が発出されました。まん延防止等重点措置も含めて、宣言が発出されるたびに組織内における感染防止対策の見直しや再度の徹底が依頼されることとなり、出口の見えない活動抑制に社会的ストレスの拡大を日々感じているところです。

こうしたコロナ禍の影響で、私たちの働き方も大きく変わりました。その最たるものが在宅勤務(テレワーク)の導入です。働き方改革の流れの中、その必要性は認識されつつも、遅々としていたテレワークですが、3つの密(密閉・密集・密接)の回避を目的とした勤務形態の見直しにより、テレワークは急速に普及しました。会議や出張に関しても、現地に出向くことなくZoomやTeamsといったWEB会議システムによるオンライン会議が定着しつつあります。筆者が所属する大学においても、感染流行の第1波が本格化した2020年4月より授業はすべて遠隔方式となり、実験・実習ですら動画で配信するといった対応をとることになりました。それまで、ITスキルといえば、Office系ソフトを使

櫻井 泉(さくらい いずみ)

博士(水産学)  
技術士(水産/総合技術監理部門)

公益社団法人日本技術士会北海道本部  
北方海域技術研究委員会 代表  
東海大学教授 大学院生物学研究科長



える程度でしたが、半ば強制的に取り組まざるを得ない状況の中、試行錯誤しながら授業動画を作成し、YouTubeに配信(限定公開)するとともに、メールやSNSを駆使して連絡調整しつつ、Teamsで会議やゼミを設定し、その運営や進行まで行うこととなり、良い意味での自己完結能力も養成されたように感じています。皆さまの職場におかれましても、同様の対応が取られていることと存じます。

ところで、北方海域技術研究委員会は、「北海道を囲む海の持続的な開発を進めるための環境の保全と創造に努め、海域を取り巻く諸問題について調査研究を行い、議論を行う中から各方面への提言を行い、具現化を図ること(規約より抜粋)」を目的として1999年5月に発足しました。本年度で22年目を迎える老舗的な研究委員会となります。これまで定例会や講演会など年間4回の会合を通じて会員の皆さまに継続研鑽や情報交換の場を提供するとともに、一般市民にも広く参加を呼びかけながら、港湾・河川・水産分野の基盤整備の推進に向けた各種提言・提案を行って参りました。この2年間はコロナ禍の影響で会合の開催がままならなかったのですが、今後の開催方法を検討する中、昨年12月にWEB会議システムによりオンラインで講演会を再開したところです。本年度も10月に講演会を開催することで準備を進めておりますが、当面はオンラインでの実施が主体になろうかと存じます。にわか仕込みのスキルではございますが、今後も会員の皆さまに継続研鑽の場を提供すべく、微力ながら尽力させていただき所存しておりますので、ご理解とご協力をいただければ幸いです。